歩～あゆみ～

兵庫県立神戸北高等学校
野球部

2021年（令和3年）
第7号

発行日
7月20日（火）

発行
野球部スタッフ一同

編集者
宮井 一真

部活動目的
～魅力的な大人になる～

所在地
神戸市北区唐櫃台
2丁目41番1号

電話番号
078(981)0131

第103回全国高等学校野球選手権大会兵庫大会

初のベスト4を目指した夏、儚く散る

◆令和2年7月24日。これは何の日だろうか。47回生の新チームスタートの日である。この日のミーティングにて第103回選手権の目標であるベスト4進出が決定した。◆この日から約1年、様々な苦難や困難を乗り越え、令和3年7月10日、第103回選手権の初戦を迎えた。◆最終スコアは1-7の惨敗。初のベスト4進出を目指した夏は、初戦敗退となった。【評】2回に先制されるも、流れを渡さなかった。徐々に流れを引き寄せ、迎えた4回裏1死満塁のチャンス。痛恨の併殺打。その後、幾度となくチャンスを作るも相手投手の粘り強い投球の前に点が取れなかった。高橋主将は「勝つということはどれだけ難しいのか、いつも通りプレーすることの難しさを改めて分かった」と話す。三井右翼守は「誰かにやれと言われて練習をするのと、自分自身で目標を立てるのとでは全然違う。目標を立てて、計画的に取り組んでいきたい。」と次のステージでの活躍を誓った。（淡路）

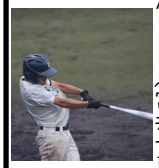
三木 7-1 神戸北

［神戸北］	打	安	点
⑨ 三 井	3	1	0
⑧7宮崎蓮	4	1	0
⑤6 原	4	1	1
⑥1高 橋	4	1	0
③ 平 野	3	0	0
H 矢 野	1	0	0
R 河 合	0	0	0
② 澤 村	4	2	0
⑦ 藍 谷	2	1	0
8 神 吉	0	0	0
H 宮崎凱	1	0	0
① 平 井	0	0	0
1 正 井	1	0	0
H5中村琉	2	0	0
④ 吉 岡	3	1	0
振球犠併残			
51217	32	8	1

▽二塁打　吉岡、三井▽盗塁　三5、神1▽失策三1、神3▽暴投平井2▽2時間20分

必殺仕事人

◆神戸北高校野球部には必殺仕事人がいる。矢野健介だ。彼の練習を見ていると、ひたすら鳥かごにて、バットを振る。さらに観察してみると、打球はすべてゴロ。チームの作戦だと言う。意識していることは「いつも通りのスイングを心がけること、緩いスイングではなく強い打球であればゴロで内野の間を抜くこと」だと語る。◆迎えた7月10日、対三木高校戦、代打のチャンスが巡ってきた。福本監督からは、「絶対に塁に出てこい」と強く背中を押された。矢野選手は「出塁することができたことは満足しているが、チームとして勝てなかったことが悔しい」、「どうしても自分の後に出てくる代走の選手にバトンを渡したかった」と1打席の中で熱い思いを秘めていたようだ。「この悔しさをバネに将来の目標である小学校教員になるために、必死で勉強します」と将来に向けても視界良好だ。（宮井一真）



歩

◆2年3ヶ月お疲れ様でした。◆君たちは何より野球が好きで野球に対する情熱は兵庫県内でもトップ5には入ると思います。休みの日にグラウンドに出てきて練習をする姿が印象に残る学年でした。その野球に取り組む姿勢は素晴らしかったです。◆練習が厳しくて逃げそうになった者、チームがまとまらず迷走した者、好きなポジションが嫌いになった者がいましたね。自分の好きな野球であったから乗り越える事ができたと思います。しかし、これからは自分の嫌いな事で頑張らないといけない時がきます。絶対に逃げてはいけない時がきます。その時は絶対に逃げずにやり遂げて下さい。君達ならできます。絶対に。◆これで高校野球は一区切りですが、今はまだ人生の通過点です。さぁ、今から何でもできます。自信を持って進み続けて下さい。◆とりあえず、ご苦労様。おかげさまで。（木村建斗）

人生は思うようにはいかない

◆たかだか40年にも満たない、若輩者の私が言うのも恐縮ではあるが、人生は思うようにはいかないことが多い。でもそれがおもろい。意図したとおりにいくことが、おもろいとは限らない。思いもよらんことが起こって一所懸命に対処していると、意図したものより素晴らしい絵が描けることがある◆幼い行動、成績不振、度重なる問題行動、そしてSNSトラブル。部室は片付かない、道具は雨に打たれ、背番号は返ってこない。辞めようとする、すぐに群れる、仲が悪い。部員のため、成長のため、未来のため。緊急事態宣言、蔓延防止策、活動制限。そして、1回戦敗退。人生は思うようにいかない◆過酷な冬練習に耐え、苦しませるはずが笑顔になる。夏キャンプ、4部練の敢行、股ズレ、血まみれの掌、痛いはずが、温泉で笑顔。人生は思うようにいかない◆まさかの捕手志望、2.8、2.06。野蹴野、右左、役割の全う。副主将、自転車、副主将補佐。欠点、レギュラー、替えのいない声。頑固、幹部、責任を背負う、変化を恐れない。逆切れ、離脱候補生、勝負どころの本格派。無反応、固まる、拗ねる、奇跡のアンダースロー、覚悟の感情表現。やる気の不安定、きんに君、感情のコントロール。自信過剰、ノック要員、覚悟の打撃職人。体力不安、体調不良、最後まで完走。ええ加減、デタラメ、主将、苦しみ、泣き虫、不安を乗り越え、独り立ち。人生は思うようにいかない◆辞める、SNS、選手愛。辞める、群れない、気付きの増加、自立。チーフ、辞める、自分のための優しさ、人のための優しさ。人生は思うようにいかない◆"strong team"を目指したはずが、"great team"になっていた。人生は思うようにはいかない。でも、あれ？最後にはいい絵になったのか。◆ありがとう。お疲れ様。引き続き、良き先輩たらんことを祈る。（福本友貴）

Dear Junior
～後輩たちへ～

◆僕は3歳の頃から野球を始め、毎日のように練習をしてきました。でも、未だにエラーや失敗をします。みんなに伝えたいことは、毎日頑張って練習をしていても、失敗をするということです。だから、失敗をした後の行動が大事だと思います。失敗をした後、自分はどういった行動、プレーをしたらいいのかを自分で考え、考えたことを実行してみて下さい。必ず自分のためになると思います。◆次に伝えたいことは、試合に負けると必ず悔いが残ります。悔いが無くなることはないですが、減らすことならできると思います。そのために、今を大切にして下さい。そして、1年生。1年生は僕たちの学年に似ている、もしくはそれ以上にしんどい学年だと思います。今、失敗ばかりしている者に伝えたいと思います。「高校生は1日で変わる」。僕はこの言葉を福本先生から言っていただき、少しは変わることができたと思います。今の自分ではいけないと思うなら、変わろうとしてみて下さい。チームも変わっていくと思います。◆最後に。爽太郎は今が一番しんどい時期です。誰かが支えてあげて下さい。僕からのお願いです。上手くいかないとき、逃げ出したいときが来ると思います。でもそれを乗り越えた先に良いことが待っているはずです。いい報告を楽しみにしています。（主将 高橋歩岐）

6

宮井のつぶやき

◆3年生へ◆47回生の皆さん、2年3か月の高校野球生活お疲れ様。それぞれが躍動した期間であったと感じる。◆さて、引退という節目だからこそ伝えたいことが2つある。❶引退がゴールではなくスタートだということ。この時期、高校野球特番で高校球児の姿をテレビでよく目にする。そこに映っているのは、涙を流し続ける高校生の姿。必死になって野球に取り組んできたのだろうと思う反面、何でそんなに泣いているのだろうと思うことも多くなった。まるで人生が終わったかのように泣き崩れている。「もっと楽しいことあるよ」と伝えてあげたい。もちろん47回生にも。引退というのは、部活動をすれば誰にでも訪れるもの。一つの節目でしかない。楽しかった過去よりも、もっと楽しいかもしれない未来を想像してほしい。❷伝統の先駆者であったこと。今考えてみると、様々な苦難や困難があった中、よくぞここまで来たと関心する。それに加えて、伝統となる土台を築きあげてくれた。選手は、朝練、居残り練等グラウンドに活気をもたらしてくれた。マネージャーは、先輩がいない中、これまでにないような仕事を創造してくれた。これは48・49回生はもちろん、この先の後輩たちが受け継いでくれるだろう。君たちが戻ってきた時まで続けてくれることを願う。◆数ある高校の中、神戸北高校に入学し、野球部を選んでくれたこと、そして、激動の2年3か月をこの1・4名で戦い抜いたこと大変嬉しく思う。少しでも同じ気持ちであったならこんなに嬉しいことはない。ありがとう。

校歌

市土の森なる
松高く
峠山峡の水澄みて
唐櫃の丘に
そびえ立つ
我が学び舎に
栄あれ
ああ、我らが
神戸北高校

校訓

実　親　規　誠
践　愛　律　実